

令和5年度入学試験問題

学校教育科学(総合問題)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3. 解答用紙は4枚です。
4. 各解答用紙には受験番号を記入する欄がそれぞれ1箇所あります。
5. 解答はすべて横書きにしなさい。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

問題 I 本文を読んで、以下の問いに答えよ。

学校の休業と再開の中で急速に進んだのがパソコンを使用した授業である。これまでにあったプログラミングや教科「情報」のために利用するのとは違って、他の教科でも授業そのものを実施する際にパソコンやタブレット PC を使うように奨励された。この動向の震源は内閣府の第5期の科学技術基本計画に示された Society 5.0 構想が土台にあり、経済産業省(以下、経産省)は未来の教室と EdTech 研究会、総務省は教育の ICT 化政策、そして文部科学省(以下、文科省)は GIGA スクール構想という関係省庁の政策の結果である。

文科省の GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール政策は、2019 年度より予算化された。子ども一人一台のパソコンと校内 LAN の整備と活用事例の普及を柱としている。今回のウイルス対策を名目にすべての小中学生にパソコン等を前倒し配備することとなった。単にパソコンを配るのではなく、今期待される能力を形成するために一人ひとりに「個別最適化された学び」を ICT 環境で実現することが目的だと謳^{うた}われている。当然のことながら文科省はすべての授業をオンライン化することを要求しているのではなく、対面の授業と組み合わせていくとし、これを「ハイブリッド」と呼び、最適な組み合わせを追求すると一応している。

経産省は、文科省より一年早く『未来の教室』と EdTech 研究会』を創設し、ICT 関連業界と結びついて、教育関連技術の開発と普及に関する検討を行ってきた。この研究会は議論だけでなく、実際に「未来の教室」の実証事業を進めており、各種ソフトやコンテンツの開発をしている。おそらく将来的には「スーパーティーチャー」としての AI の制作を見通していると思わなければならない。なお EdTech とは、教育と技術の英語を合わせた造語で、教育用ソフトウェア等のことを指す。文科省の「個別最適な学び」と語順が違うのだが、このプロジェクトでも「学びの個別最適化」をキーワードとしている。子どもの学習記録を集め、そこから最適なプログラムを選び出し、子どもが自立的に学習を始めることを期待している。

総務省は、ICT・デジタル技術の 5G(第5世代移動通信システム)を通じた教育環境づくりを目指す取り組みを進めている。これも実証実験を開始し、「個別最適化」をスローガンにしている。

各省のプロジェクトは、経済の観点から学校という安定的な市場を企業が確保することをねらいとするものであるが、教育の側から見ると、今の遠隔教育やデジタル技術やコンテンツ開発の内容と方向が経済的な理由から持ち込まれるために、深刻な問題・不安を生み出していることがわかる。キーワードの「個別最適化」という響きのよい言葉と裏腹に、開発される ICT 機材とソフトウェアに「個別最適化」を意図した機能を持たせるだとか、これが「個別最適」なシステムの生み出した授業課題や授業構成なのだ、などと教室に降ってくると、教師と学習者には押しつけとなって、困難を突きつけていくことも少なくない。

(中略)

オンライン授業には、できることとできないことがある。通常の対面授業あるいはリアル授業と同じことができ、取って代わると考えるのはソウケイである。^①取って代わると断じる人がいれば、それだけで子どもの学びというもの、授業というものを知らないと見なしてよいだろう。文科省は、そこまでソウケイではないの^①で「ハイブリッド」としているのである。

オンライン授業として、ここで想定するのは、一つはオンデマンド型授業である。映像や資料をアップしておいて、それを学習者が個別にアクセスして視聴し、そこに示された課題を遂行して返信するものである。もう一つは、同期型の授業で、教える人と学ぶ人が同時にオンラインで結ばれてコミュニケーションをするタイプである。

オンデマンド型の方が制約が多い。学習者はいつでも好きなときにアクセスできるというメリットはあるが、そこに生きた教師がいないので、学習者の質問や応答に即した対応が即座にはできない。また、複数の学習者による共同的・協同的活動はできない。他方で、複数回アクセスして視聴することはできる。理解が不十分な場合など、アクセスしようとさえすれば、同じものを繰り返し視聴できる。

同期型は、教師と学習者による言語・記号的なコミュニケーションがある程度可能となる。聞けば応えることが連続的に可能となるという意味で、オンデマンド型とちがって即応性は高くなる。臨機応変の度合いがより高いシステムである。

以上のような機能的な違いがある。

どちらであれ、できることは、言語情報・視覚情報の一部を送ることである。それ以外の情報は送ることができない。言語・記号、音声は、制約はあるものの、相互に送ることができる。また、アクセスしている者がオンラインを通じて送られてくる情報をパソコン等の機器に接続していれば、それぞれの機器を動かすことによって得られる情報を受け取ることができる。ただし、これは機器が揃っている場合であって、一般的にはパソコン上の言語記号や音声記号に事実上限定される。具体的に言えば、理科の再現実験はできないが、再現実験映像は送れるということである。ただ、ここで踏まえるべきは、再現実験と再現実験映像は大きく異なるということである。熱や臭いや本当の音などはわからない。それらの情報を通じて受け取るはずの感覚を人は知ることができない。

また、音声情報や視覚情報もすべてを相互に送れるわけではない。一部に限られる。後でも触れるが、世界の中に置かれた人間は、世界中の聞こえる音から聞こえない音まで全体を聞きながら、選択的に注意を向けた音声を聞いている。全体の中に位置づけて聞いていることが重要なのである。風の音が聞こえる中で話者の声を普通は聴いている。オンラインの場合は、マイクの特性とスピーカーの特性、さらに一部の人の音声だけ選択的に送受信するという機器の制約によって、世界の音声情報が削減されている。これは映像情報についても同じことが言える。拡張の技術は削減の技術と結びついている。

機械を通過させるということは、特定の音声だけを拡大したり消去するということである。視覚情報も同様に、人の能力では見えないビショウ^②な世界を拡大して捉えることを可能にする場合もある。この点は、使い方によってはメリットとなる。生身の人間にはできないこともあるが、乳幼児も含めて人は、機器にできないことを事も無げにできてしまうことが無数にある存在である。

ともかくオンライン授業には、これらのできることとできないことがある。このことをきちんと踏まえることが必要である。今できないことの一部は、将来、技術的にできることに変わるものもあるかもしれない。

しかし、今後もしもできないことがいくつもある。学習者が直接モノや人に触れることは今後もオンライン授業ではできるようにはならない。オンライン参加の人が物

事や人に働きかけて、そこからの応答を直接受け取ることはできるようにならない。私たち人間は、人やモノに働きかけることで働きかけ返されることを通じて学んでいく。この最も基本的なことがオンライン授業はできない。人間の脳細胞の一つひとつの仕組みが解明され、情報伝達物質と電気信号それぞれの置き換えが人為的に可能となり、その人工の脳細胞と人の脳細胞の接続が可能となれば人の脳治療が可能となるばかりでなく、自律的機械が意識を持つことができるはずだという空想が存在するが、仕組みの解明にはほど遠く、現実にはできない。今と近未来にできるのは、人やモノからの一部の情報を受け取り、音声と視覚情報のごく一部をオンラインで端末に送ることだけである。

以上のできること・できないことを踏まえて、学校教育の中で利用する場合、例えば、出欠や通常健康チェック程度はオオムネ問題なく使える。しかし、各教科の学習となるとオンライン授業はできないことがひどく増える。現実と結びついた知識の学習はできなくなる。現実^③は総合的で、言語記号の一部だけは届けられるが、他の情報がカットされてしまうからである。映像としての太陽には熱がないという一例の指摘で十分だろう。そうした情報がなくても学習として十分に成立したとしてしまってもよい場合には、遠くの人の意見を聞いたりできる手段としては使えることになる。

だからバーチャルとリアルあるいは本物との差は大きいのである。学ぶということ⁽¹⁾にとって決定的な違いであることを踏まえる必要がある。

(中略)

意外に聞こえるだろうが、オンライン授業は教育の画一化を促進する。「個別最適化」をスローガンとした GIGA スクール構想の手段の一つに挙げられているのといぶかる人もいるだろう。例えば、これらのシステムを利用した授業づくりにおいて、教科書の教材をそのまま利用することが圧倒的に多くなった。休業期間中に教育委員会や学校が授業用の映像を作成して配信した地域がある。オンデマンド型の授業である。これらの多くが、教科書をコンパクトに説明することになった。個別の教師が作成して配信すれば、まだ担当クラスに合わせた映像ができあがる可能

性がいくらか高くなる。だが、所管地域全体を意識した結果、教科書に関する要領のよい説明が一つできあがった。利用する人数が多く、地域が広いほど、教科書そのままの教材と授業展開となる。

同期型の場合も、ネットに接続して配信することで、授業の映像が外部に拡散する危険と、それらを通じた外からの評価を考慮すると画一的教材と授業構成になりがちであった。この現象は、教育の権力的構造とも重なって、教科書通りの授業構成を促進し、結果的に画一化を促すこととなった。

(中略)

学習活動のカンシは通常のリアル授業の比ではない。パソコンとその接続機器は、記録しようとすれば、そのほとんどをデジタル保存することができる機能と能力を備えている。オンライン授業に参加した子どもが何を書き、何を話し、何を考えたのかを最初から最後まで記録することができる。リアル授業なら相互のやり取りなど印象深いことが記憶されていたとしてもその多くは忘れられていく。しかし、今や保存されて評価に利用されていってしまう。Zoomの機能でいえば、チャットへの書き込みは保存でき、全体をカメラに保存できる。授業支援ソフトなら、さらに細かくカードへの個々の子どもの書き込みも記録保存できる。

さらに、ブレイクアウトルームなどの少人数による討論ができる機能も同様だ。この機能はまことに便利だが、裏に問題を抱えている。一つは機械的にグループを編成する場合の強制性と対人関係の問題、二つはそこでの発言も記録され、逃さず評価される仕組みの問題である。個々人の討論への参加の仕方や発言内容が逃さず記録されるため、少人数の対話でも緊張とイシュクが作動することになる。いわば、プライバシーのない世界、すべてが見透かされた世界に学習空間になってしまうのである。学習ログの収集と正確な評価のために、プライバシーをいとわない学習世界を誕生させるのかどうか問われている。

学校の休業が続くような場合、遠隔教育の機能は魅力的にみえるが、授業に関する「個別最適」な処方^⑤が示されるたびに、コミュニケーションに対する緊張とイシュクが現れる。これへの対応が必要なのではないか。

学校内の動向とは限らないのだが、画一化の観点で見逃せないのが、パッケージ化されたコンテンツの配信である。教育産業を中心にひとまとまりのコンテンツの配信が進んでいる。それらの一部は学校が消費するためにつくられている。これが一旦普及すると、従来とは比較にならないほど定型化する。基本的に同じ形のデジタルコンテンツを子どもたちは利用するようになり、それらを部分的に学校の授業でも利用するようになる。これは、紙媒体の教材としての利用とは比べものにならないほど、画一化する。デジタルコンテンツは、進行が定められており、扱いがより固定的だからである。

画一化に留まらず、これらのシステムは、子どもが間違えることをソフトに許さないシステムとなっている。一定の正解を出すように導くシステムとなっている。従来は、時に失敗を見逃す時間と空間であった「教室」を変質させてしまう。「未来の教室」を過ちを許さない場所にしていいわけがない。「教室は間違えるところだ」からである。オンラインのシステムとコンテンツは教師にもプレッシャーとなる。

このように考えてくると、今描かれている「未来の教室」は設計し直さねばならない。

【出典：子安潤『画一化する授業からの自律——スタンダード化・ICT化を超えて——』学文社，2021年，109-118ページ。なお，出題の都合上，一部を変更・省略している。】

問 1 下線部①～⑤のカタカナを漢字で答えよ。送り仮名が必要な場合は記入すること。

問 2 「ICT化された教育」とは、どのような教育か説明せよ。(字数制限なし。ただし、解答欄に収まるように記述せよ。)

問 3 下線部(1)に関連して、オンライン授業と対面授業とを比較して、学ぶということにおいてどのような決定的な違いがあるのか、200字以内で説明せよ。

問 4 下線部(2)に関連して，筆者は「未来の教室」がどうあるべきであると考えているか。本文に即して 200 字以内で説明せよ。

問 5 コロナ禍において，教育の ICT 化が進む教育現場にはどのような課題があり，教師はそれらに対しどのように向き合っていくことが求められるのか，本文の内容やあなた自身の経験なども踏まえながら，400 字以内で述べよ。

問題Ⅱ 本文を読んで、以下の問いに答えよ。

完璧志向とは何か―完璧主義との違いに着目して

(中略)

わが国では、日本画家の川端龍子^{かわばたりゅうし}や奥村土牛^{おくむらとぎゅう}もいわゆる^①完璧主義者であったようですが、私から見れば“完璧志向”の人であったと思われます。奥村土牛^①は、舞妓^{まいこ}さんの絵を描いて展覧会に出展しようとしていたときのことですが、出展の前日になって急に「もう一度舞妓^{まいこ}さんが見たい」といって京都に出かけたそうです。完璧を求める気持ちの現われではありますが、周囲の人はとても驚きました。しかし、現実的に対応が可能な範囲での行動ですので、これも適応的な行動^{はんちゅう}の範疇に入るのではないのでしょうか。

(中略)

完璧主義から完璧志向への移行を可能にするのは、「完璧は理想であり、現実的には完璧に近づくことをよしとする」という考えを率直に受け入れることだと考えます。

まず、完璧主義の本来の定義によると、完璧主義者は「すべてのこと」を対象にして完璧を求めます。一方、完璧志向の人は「ある限定されたこと(多くは興味・関心のあることや他者から依頼されたこと)」を対象にして完璧を求める点が、本来の完璧主義者とは異なります。

ただし、実際の完璧主義者のなかには、完璧志向と同様に限定的なことを対象にして完璧を求める人も多くいます。たとえば、摂食障害になる人のなかには、理想的な細身体型になることのみを目標とする完璧主義の人が少なくありません。したがって、この点では、完璧主義と完璧志向に大きな違いはありませんので、つぎの節で紹介する四つの完璧の構成要素で両者を比較するほうが合理的かもしれません。

二番めは、完璧の求め方の違いです。完璧主義では「完璧であらねばならない」という信念で固まっていますが、完璧志向ではあくまでも“志向”ですから「完璧でありたい」あるいは「完璧に近づきたい」ということでよいわけです。完璧志向では完璧をめざしますが、それは理想であり、現実的には理想に近づければよい、ということになります。完璧主義の完璧の求め方は、理想的で過度であるのに対して、完璧志向の完璧の求め方は現実的で適度と形容できます。このことを、つぎの四つの点から具体的に説明します。

完璧主義と完璧志向の構成要素の比較

一つめは、完璧主義では「高すぎる目標の設定」ですが、完璧志向では「理にかなった高い目標の設定」、もっと厳密に言えば、努力すれば達成が可能な程度の高い目標の設定ということになります。高すぎる目標、いわゆる理想的な目標をもつことも意欲づけには必要かもしれません。しかし、それはあくまでも理想としての目標であって、現実的にはがんばれば達成することができる高い目標をしっかりと持っていることが大切です。この点は心理学における達成動機づけ研究の成果によって実証されています。

たとえば、数学のテストで100点を取ることは理想ですが、現実的には80点以上取れば今回はOK というような目標を設定するということです。(中略)

二つめは、完璧主義では「厳しすぎる自己評価」ですが、完璧志向では「しっかりした自己評価」、もう少し具体的に言えば、自分の達成行動を振り返り、目標がどの程度実現できたかをしっかり評価すること、です。完璧主義の厳しすぎる自己評価では、必ず粗捜しをしますのでミスが見つかり目標(完璧)の達成はほぼ無理と考えられます。一方、完璧志向のしっかりした評価では、達成ならば達成と判断したうえで、詳細な部分まできちんと評価することが大事になります。すなわち、目標が達成できればそれでよしとするだけでなく、どのようなやり方がよかったのか、さらに高い目標を達成するにはどのような工夫が必要か、などを考えてみるとか、反対に目標が達成されないときには、どうしてうまくできなかったのか、どうすればうまくできるようになるのか、などを考えてみたりすることが必要です。そして、これらのことがつぎの適切な目標の設定につながります。さらに、目標が達成

された場合には自分をほめ、目標が達成できなかつた場合には自分を激励すること(自己強化)も大事です。このことによって意欲が持続されます。主体的に学習や仕事を進めるにはこうした対応が効果的です。

(中略)

三つめは、完璧主義では「失敗恐怖」ですが、完璧志向では「失敗を恐れないこと」、もう少し具体的にいえば、失敗に恐怖を感じる(いつでもミスをするのではないかとギシンアンキになっている状態)のは行き過ぎですので、できるだけミスをしないように^②気を配る程度にして、失敗を恐れずに新たな挑戦をするということです。じつは、精神衛生上は、この失敗恐怖が不健康・不適応の大きなリスク要因であることが知られています。完璧志向では、できればミスはしないほうがよい、くらいに考えて、新たな挑戦をすることが大事です。

四つめは、完璧主義では「強すぎる評価懸念」^③ですが、完璧志向では「他者の否定的な評価をあまり気にしないこと」、さらに詳しくいえば、現実的には他者による否定的な評価は誰にでも起こることですので、それをあまり気にせず、むしろそれを自分が成長する糧^④と考えるようにすることです。周囲の他者との間に信頼関係があれば、その他者の肯定的な評価とともに否定的な評価も問題なく受容することができます。また、否定的な評価を受け入れることによって、学校の課題でも職場の仕事でも、より質の高いものにすることが可能になります。

(中略)

完璧主義と完璧志向がもたらすもの

(中略)完璧主義の場合には、一時的にうまくいくこともあり、そのようなときは課題や仕事で高い成果をあげ、身体的にも精神的にも良好で、むしろハイな状況になるようです。

しかし、長い目でみると、いつも完璧を達成することは困難なため、一生懸命がんばりますが、失敗恐怖で戦々恐々となり疲労度も高まり、さらには無気力になっ

たり、すべきことを先延ばししたりするようなことが現われます。(中略)

また先にも紹介した通り、完璧な体型(本人にとっての理想的な細身体型：一般には細すぎる体型)を過度に求める人の場合には、摂食障害(拒食症や過食症)になる可能性が高まります。(中略)完璧主義についてこのようにみえてくると、長い目でみるかぎり、不健康で不適応な状態をもたらすリスク要因として位置づけられると考えられます。

一方、完璧志向はその反対で、ほぼ適応的であり、仕事や学習で量的・質的に高いパフォーマンスをあげることができ、身体的にも精神的にも健康でいられるようです。両者の差はとても大きいように思います。

【出典：櫻井茂男『完璧を求める心理——自分や相手がラクになる対処法——』金子書房，2019年，16-24ページ。なお，出題の都合上，一部を変更・省略している。】

問 1 下線部①，③，④の漢字の読み方を答えよ。

問 2 下線部②のカタカナを漢字で答えよ。

問 3 完璧主義と完璧志向の違いが分かるように，それぞれの特徴を対比させながら，簡潔に表に記入せよ。

問 4 100点満点の数学のテストで，80点を目標にしていた完璧志向の人が90点をとった場合の自己評価はどのように^な為されるか。具体的に述べよ。(字数制限なし。ただし，解答欄に収まるように記述せよ。)

問 5 著者の考えを踏まえたうえで，「学業において完璧主義である子どもへの教師による教育・支援方法」についてあなたの考えを述べよ。(字数制限なし。ただし，解答欄に収まるように記述せよ。)